

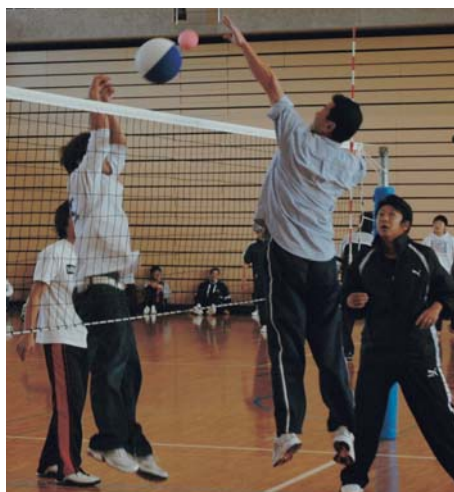
ソフトバレーで交流

第19回勤労者の祭典（松浦市商工業労政推進協議会主催）が12月10日、文化会館で開催されました。

企業優良従業員表彰では、11事業所から一人ずつ選ばれた11人が表彰を受けました。

また、同協議会の会員事業所相互の交流を目的に行われた職場対抗ソフトバレーボール大会には、市内事業所から6チームが参加。元気いっぱいのプレーで親ぼくを深めました。結果は次の通りです。

- ① エミネント
スラックス
- ② ジェイベックス
- ③ 松浦衛生事業協同組合



メロンまつりでアールスメロンを販売

松浦メロンまつりが12月10日、海のふるさと館で開催され、アールスメロンを販売しました。

今年のアールスメロンは、台風による浸水被害を受けたものの甘さは十分。市価より安いとあって、市内外の買い物客が大勢詰めかけ、用意された約600玉のアールスメロンは飛ぶように売っていました。

また会場には宅配コーナーが設けられ、新鮮なメロンを遠くの親せきに送る買い物客も多く見られました。

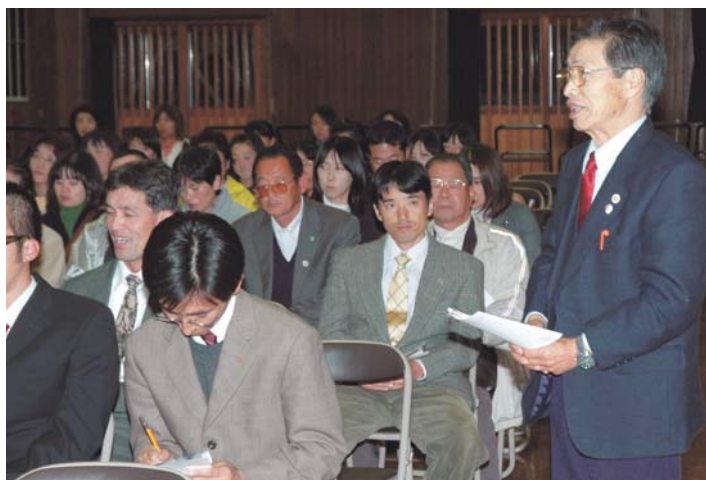
思いやりと命を大切にすることを

子どもに寄り添う心の夕べ（松浦市教育委員会主催）が12月1日から21日まで、市内6会場で開催されました。

いじめによる子どもの自殺が全国で相次いでいるため、大人一人ひとりが思いやりの心と命の大切さを認識し、学校、保護者、地域が一体となった子育てを実践しようと開いたものです。

12月1日の福島会場（福島町社会福祉センター、写真）では、松浦市少年センターの中原 惇^{あつし} 補導監が「市内の青少年の現状」について講話を行い、参加した市内小中学校の教職員や保護者、地域住民と意見交換を行いました。

参加者から「制服の乱れなどを見た場合、子どもたちにどう声をかけたらよいのか」などの質問や意見が出ていました。



「イカのおすし」 クリアファイルを贈呈

松浦地区連合防犯協会（会長・友広郁洋松浦市長）が作製した「イカのおすし」クリアファイルが、市内全児童に贈られました。

「イカのおすし」とは、知らない人について「イカ」ない、「の」らない、「お」おごえで叫ぶ、「す」ぐ逃げる、「し」らせるの頭文字をとったもので、全国で不審者対策の呼びかけに使われているもの。児童たちに防犯の意識を高めてもらおうと、市内小学校の全児童分（来年度入学予定者分含む）約2,000部を同防犯協会が作製しました。

11月27日に市役所で行われた贈呈式では、友広会長から志佐小学校の6年生4人にクリアファイルが手渡され、福岡佳一郎君が「声を掛けられても『イカのおすし』を守って、十分に気をつけて過ごします」とお礼を述べました。

和牛増頭で地域振興を

J Aながさき西海和牛振興大会（ながさき西海農業協同組合主催）が11月29日、文化会館で開催されました。

繁殖牛や肥育牛の増頭計画を進め、全国へアピールできる産地づくりに取り組もうと開催されたものです。

この日は、同農協管内の和牛生産者や関係機関から約千人が参加。大会では、繁殖牛1万2千頭、肥育牛3,500頭を目標にすることや平成24年に開催される「第10回全国和牛能力共進会長崎県大会」の県北地域への誘致などが確認されました。

また、和牛振興に貢献した5人を表彰し、本市からは鬼塚利雄さん（志佐・池成、76）が功労者表彰を受章しました。



人権週間に人権啓発パレード

人権週間（12月4日～12月10日）にちなんで、市内の人権擁護委員による人権啓発パレードと人権相談が12月4日、5日に行われました。

人権擁護委員は、法務大臣が委嘱した民間の人で、地域の中で人権思想を広め、人権侵害が起きないように啓発活動を行い、子どもから大人、女性や高齢者の人権相談にあたっています。

パレードでは人権擁護委員が各町の中心部で啓発パンフレットなどを配布しました。また、人権相談所が市内3カ所で開設され、悩みごとの相談にあたりました。



おにぎり食べて国際交流

上志佐保育所（辻久敏所長）で11月18日、「おにぎり食べて国際交流」があり、園児がALT（外国語指導助手）と交流しました。

同保育所の園児が有機栽培で育てたハウレンソウと地元で収穫された米を使って、松浦市の「食」を味わってもらい、子どもたちにも英語に親しむ機会をつくらうと計画されたものです。

この日は、市内のALT3人が参加。園児たちはALTとダンスをしたり、似顔絵を描いたりして楽しみました。おにぎり作りでは、ラップで包んだご飯を楽しそうに丸め、ハウレンソウ入りの豚汁と一緒においしく味わっていました。



認知症？でも大丈夫！

認知症高齢者生活支援講座（財団法人長崎県すこやか長寿財団主催）が11月30日と12月14日、文化会館で開催されました。

高齢者の尊厳ある介護のあり方について啓発を行うことを目的に開催されたものです。

11月30日の講座では、認知症の家族を抱える介護者の会の三谷恭平会長が、会の活動内容やこれまでの介護の体験談を発表しました。

また、大村市中澤病院の中澤和嘉院長（写真）が、医師の立場から、認知症の高齢者の理解、家族の接し方や介護者としてのあり方について講演を行いました。市内外から約150人が訪れ、認知症になっても安心できる生活環境づくりに熱心に聞き入っていました。

